

全教職員配布

全釘路情報

2024, 2月

「学校がもたない！緊急アンケート」

中教審に声を届けます

文科省の中央教育審議会（以下「中教審」）は、「働き方改革」「給特法」にかかわって今年度末に答申をだす見込みです。そこで、私たち道教組と全教は、中教審の審議と答申に先生方の声を反映させるため、緊急アンケートをGoogleフォームで実施しています。アンケートは2月末日まで集めます。その上で3月上旬に記者発表、文科省前要求行動等を通して、教職員、保護者をはじめとする市民、退職教員の願いを、中教審・政府・各政党に届けます。

緊急アンケートの取り組みは、以下のように行います。

- 1 アンケートとりくみ期間 : 2月1日(木)~2月29日(木)
- 2 アンケートの方法 : Google フォームによるアンケート

<https://forms.gle/de1oj4ArrG725LYWA>

教職員の皆さん、ぜひご家族やお知り合いの方にも広げてください。教職員とその家族の切実な声を文科省・中教審に届けましょう！

保健室の窓から

新コーナー「保健室の窓から」を始めました。養護教諭の方から寄稿していただきます。

以前、中学校の卒業式の前日、3年生が保健室に集まってお礼を言いに来てくれたことがありました。

『わたしたちは

「なんかあったら保健室」

「とりあえず保健室」

「なんにもなくても保健室」に行こう！

と、よく来てしまいました。ご迷惑をおかけしました！そんなわたしたちをいつも、迎えてくれて、ありがとうございました！お世話になりました！』

突然のことに驚きと、これまでのことがよみがえり胸が熱くなりました。

「社会に出たら、保健室なんかないんだ！用事もないのにいくな！と言われた・・・。」

「保健室で甘やかすから、学校の規律が乱れる。」そんな言葉が学校で流れます。

なぜ保健室に子どもたちが来るのでしょうか？

学校でのゆがんだ学力競争の中、甘えは許されず、本音、弱音は吐けず、みんな頑張っているんだから、できない自分が悪いとせめ疲弊していく子どもたち。

貧困や家庭生活の困難さを抱えながらなんとか登校している子どもたち。

「こんなことで、保健室に来てはいけないと思うんですけど・・・。」

「熱はないと思うんですけど・・・。」

子どもの「・・・」に、本当は聞いてほしい、でも言いにくいことが心の奥底で蠢いています。子どもの声を聞くことはとても難しい。ゆっくり、丁寧に寄り添う時間が必要だからです。わたしが聞けなかった声が本当に多いと思います。

だれの、何のための教育なのか？ わたしたちはもう一度立ち止まって考えなくてはいけないのではないのでしょうか？子どもたちのためといいながら、子どもたちの実態を無視して、進んでいく教育。

次から次と、あれもこれも、学校で！学校で！とおろされ、教職員の数は増えることもなく、環境が整うこともなく、現場の声を聞くこともなく進んでいく教育。教職員も疲弊するばかりです。そして、疑問があっても、言われたことはやらなくてはと仕事に追われ、まるで「思考を停止させられようとしている」のではないかと感じます。

「教育とは何か」原点に立ち返り、考えたら声に出してみる、動いてみる、誰かに話してみる。現場で働いてるのはわたしたちなものだから。

子ども期は、身心を豊かにするかけがえのない、人生の土台となる時期です。子どもたちは、「今」を、「子ども時代」を、大人になるための準備期間として犠牲にしている存在ではありません。

(市内 養護教諭)

中教審に声を届けます

学校がもたない！緊急アンケート



みなさんから寄せられた声は、記者発表をおこなって社会的にアピールします。

期間：2月8日から29日まで
← アンケート記入ページ

長時間労働防止署名をすすめるネットワーク
事務局：全日本教職員組合 / 新日本婦人の会 / 全日本退職教職員連絡協議会

自由に表現する喜びは、

安心感ある教室から生まれる

～少人数の学校の子どもたちと語りかわした授業～

釧路教1月集会在、1月21日(日)星が浦教育会館で開催されました。講師は、標茶町を中心に中学校の音楽教師として活躍された石窪満先生でした。14年間の音楽技芸講師としての実践を、子どもたちの思いを表現した歌(録音)や作文を中心にお話していただきました。

はじめに、「歩くうた(詩:谷川俊太郎)」の全文とこの歌を歌ったときの生徒の反応が紹介されました。この歌を歌い続けていく中で「勇気が湧いてくる」「この歌は人生を表している。前向きだけど、ときどきは転んでもいい。道は決まっていないのだから、自分の好きなところへ、自分の感情をおさえる必要はない、と思える詩。」と感じたり、「東西ドイツのアノ壁のこと?」と、考えを世界にまで巡らせたり。

続けて、一般の音楽の世界と同じように「美しいハーモニーの合唱」や「一糸乱れぬアンサンブル」を学校教育で求めているのだろうか、「一人ひとりの思いを受け止める」音楽の授業とはどういうものか、という問題意識が提起されました。

中学生の歌声はどれも喜びいっぱい、歌うことが楽しくてしょうがない、という気持ちがあふれていました。シナリオから子どもたちが作り上げたという文

必要で、自分を探して心揺れる思春期の子どもたちにはなおさら必要なものだと思います。

第21回 全釧路教職員組合定期大会

下記の通り、定期大会を開催します。Zoomでの参加も可能なハイブリッド方式で開催しますが、年に一度の、組合の活動方針を決める集まりですので、できるだけリアルで参加してみんなで元気になりましょう!

また、議案書と一緒に新年度の役員選挙の投票用紙が届いていると思います。期間内に投票いただけますよう併せてお願い致します。

※駐車場に限りがあります。満車の場合はコープさっぽろ等の駐車場をご利用ください。

※ZoomのIDおよびパスコードについては後日お知らせします。

記

日 時: 2024年2月23日(祝) 13:00~17:00

会 場: 星が浦教育会館(釧路市星が浦大通3-5-40)

内 容: 2023年度運動の総括、会計中間報告

2024年度運動方針、会計予算案 他

以上

今後の日程

2月23日(金・祝) 全釧路第21回定期大会

13:00~星が浦教育会館

25日(日) 釧路連評議員会 14:00~ まなぼっと

3月9・10日(土・日) 道教組定期大会 札幌

編集後記 1月1日、元日に起きた能登半島地震。1か月たった今も、まだ温かい食べ物すら食べられない方がいると報道されていました。政治の貧困を感じます。今、私たちの組合では支援募金に取り組んでいます。全教という全国組織で集約し、直接、現地の教育委員会に届けます。ぜひご協力ください。「学校が持たない!緊急アンケート」へのご協力、新コーナー「保健室の窓から」へのご意見ご感想もよろしく申し上げます。(古)

発行 全釧路教職員組合 代表 委員長 山口幸紀 Tel 0154-51-0476 fax 0154-51-1667
住所 釧路市星が浦3-5-40 星が浦教育会館内 E-mail zenkushiro@gmail.com

歩くうた 谷川俊太郎

ひとは歩く
てくてく歩く
ひとは歩く
のそのそ歩く

ひとは歩く
ぶらぶら歩く
ひとは歩く
道がなくても
ひとは歩く
砂漠をこえて
ひとは歩く
よそ見しながら
ひとは歩く
好きなほうへ
ひとは歩く
今日から明日へ
ひとは歩く
自分の足で
ひとは歩く自由がある

ひとは歩く
すたすた歩く
ひとは歩く
とぼとぼ歩く
ひとは歩く
のしりしり歩く
ひとは歩く
扉をあけて
ひとは歩く
錠をこわして
ひとは歩く
壁をつきぬけ
ひとは歩く
大地を踏んで

ひとは歩く
国境こえて
ひとは歩く
ひとを助けて
ひとは歩く自由がある

化祭の発表は、歌はもちろ
ん、朗読にもその子らしさが
表れていました。上手い下手
ではなく、一人ひとりの個性
と気持ちを尊重した教師の関
わりと授業の中で、子ども同
士もそのような関係になって
いくことがわかりました。

受験や評価を常に意識せざ
るを得ない中学校で、ダメな
部分も含めて認め合える教室
は大変貴重なものだと思います。
また、自由に考えをめぐらし、自由に表現することが人間性を育むことには